

「鳴門わかめ」増産・販路拡大緊急対策事業 未利用漁場を活用した二期作による増産実証試験

棚田教生・加藤慎治

近年、本県のブランド品目であるワカメの生産量は、生産者の高齢化等による担い手不足や漁場環境の変化により減少傾向にある。このため、ブランドを維持・拡大するためには生産量の維持・増大を早急に図る必要がある。

本事業では、これまでワカメ漁場として利用されていなかった小松島市和田島地区沖合のノリ漁場を、ワカメの養殖漁場として活用するために二期作養殖実証試験を実施した。

材料と方法

従来のワカメ養殖漁場（区第78号内）の沖合に位置するノリ養殖漁場（区第79号内、以下「沖漁場」とする）において、ワカメの海面養殖試験を行った（図1）。早生品種、晩生品種の使い分けによる二期作養殖を行うため、一期作目には早生品種のFKU-WS × 鹿児島 種苗、二期作目には晩生品種のHY種苗を試験に供した。各種苗は「新しいワカメの種苗生産マニュアル」に基づき生産した。

養殖試験では、種糸を巻き付けた長さ50mの養殖ロープ（写真1）を延縄式で海岸に平行に設置した。一期作目は



図1. 養殖試験実施地点

平成24年11月14日から平成25年2月21日まで、二期作目は平成24年11月28日から平成25年3月27日まで養殖した。

養殖ロープ上に着生しているワカメを1回/月の頻度で10個体以上採取し、測定用標本とした。採取したワカメのうち大きい個体から10個体を選び、葉長及び葉重を測定した。一期作目は平成25年2月12日及び2月21日に、二期作目は平成25年3月27日に収穫した。

結果と考察

一期作目は1月上旬には葉長70cm以上の収穫サイズに生長し、2月12日の収穫時には葉長は161cm、葉重は296gに達した（表1、写真3）。収穫されたワカメには葉体表面の皺がほとんど見受けられず、先枯れや付着物も少なく、形状も晩生系に匹敵するほど良好であった。ロープ1mあたりの収穫量は、2月12日に約5.3kg、2月21日に約8.9kgであった。

二期作目は、3月27日の収穫時には葉長は226cm、葉重は475gに大きく生長した（表1、写真3）。収穫されたワカメには葉体表面の皺がほとんど見受けられず、形状も良好であったが、一期作目のワカメと比較すると先枯れ及び付着物が多く見受けられた。ロープ1mあたりの収穫量は約15.6kgであった。

今回の試験結果から得られたロープ1mあたりの収穫量は、一期作目、二期作目ともに、鳴門市里浦地先の沖合漁場で近年実施している二期作養殖試験で同時期に収穫されたときの数値を上回っていた。また、潮流の速い和田島の



写真1. ロープへの種糸巻き付け作業

沖漁場で養殖されたワカメは、品質面においても良好であることが実証された。特に、一般に品質劣化が早いとされる一期作目の早生品種の収穫が、2月中旬まで可能であることがわかった。一方で、沖漁場は潮流が速いことから、今回のように海岸に平行に延縄式でロープを設置すると、潮流を強く受けてワカメがロープに絡みつくとという課題が発生した。ワカメが絡み合って生長を阻害したり、収穫時

にワカメが引きちぎられるという問題が発生することから、今後は養殖ロープの設置方法を検討する必要がある。

今回の養殖試験から、和田島の沖漁場においてワカメの二期作養殖が充分可能であることが実証された。今後、当該漁場に適応した養殖方法に改良し、二期作養殖することにより、和田島地区におけるワカメ生産量の増大につながるものと思われる。

表1. 二期作養殖におけるワカメの生長及び収穫量

	調査日	平均葉長 (cm)	平均葉重 (g)	収穫量 (kg/m)
一期作目	平成25年1月8日	71.5	65.5	-
	平成25年2月12日	160.9	296.4	5.3
	平成25年2月21日	-	-	8.9
二期作目	平成25年3月27日	225.8	475.2	15.6



写真2. 一期作目（左，平成25年2月12日）と二期作目（右，平成25年3月27日）において収穫されたワカメ



写真3. 一期作目（左，平成25年2月12日）と二期作目（右，平成25年3月27日）に収穫されたワカメの形状